

平成25年3月発行

生活デザイン設計室 株式会社 サンク

情報誌

くらし の スタジオ

<http://www.cinq-sd.co.jp>

春弥生、桜の開花宣言が待ち遠しい季節を迎えます。
今年はサンクを設立して30年という節目の年に当たります。

女性だけの事務所というのがまだ珍しかった当時、マスコミにも少し取り上げてもらつたことがきっかけで今日まで口コミでお仕事を続けてきております。人はかわり、時はたち、でも未だに5人の女性だけの事務所、CINQの意味にこだわって…
これからどんなことができるのか新たな挑戦をしてみたいですね。今年もよろしくお願ひいたします。

3月11日、震災から丸2年がたちました。

再生へのあらたな一歩を踏み出されている被災地の皆さん、
まだまだ復興には長い年月かかるかと思いますが、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。
私たちはこの震災を風化させないよう、努力していくたいと思っております。



2013
早春号(季刊)

創刊 Vol.6

特集 人の手を借りやすい間取り

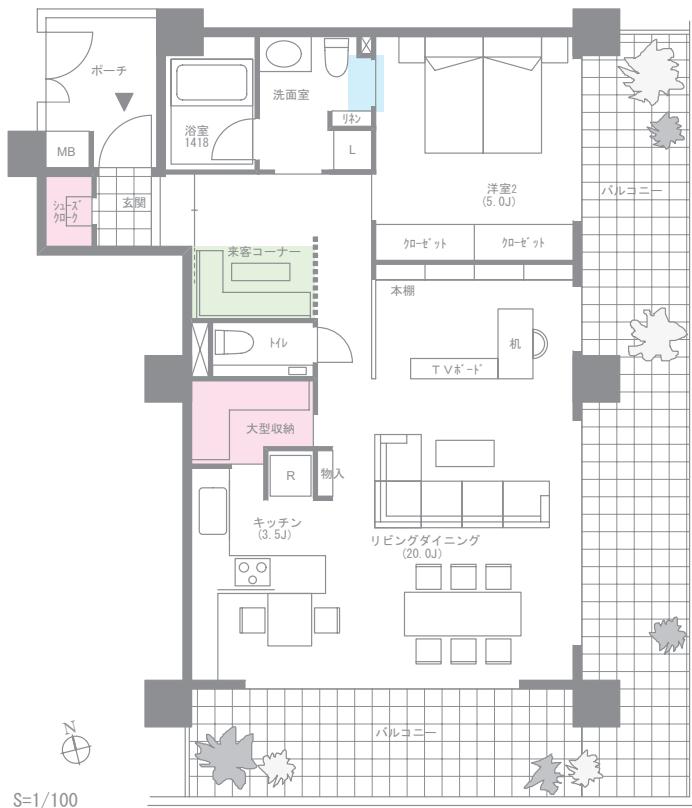
前回の通信では、終の住処の間取りはどんな間取りがベストか昔の間取りを振り返り、住み心地の良さの基本は同じ、50年たつても色あせていないことを実感しました。女性だけの設計事務所を立ち上げて30年、その間、ずっとここだわってきたのが暮らしやすい間取り。そこで今回は「人の手を借りやすい間取り」の提案です。

どうい生き方がしたい。何処で暮らしたい。との質問に大方の方が自宅で最期まで少し人の手も借りながら暮らせたら良いな。と話します。年を積み重ねる事は自然と体力も気力もなくなり、今まで自分だけでできてきたことも人の助けを借りる必要が出てきます。

誰でもが暮らしやすい住まいづくりと言うとバリアフリーに特化されがちです。例えば、段差、廊下幅、階段のこう配など。そこでもうひとつ忘れてはならない間取りからみたバリアフリー「人の手を借りやすい家」を考えます。

人は何かを頼みたいとき、してもらう方がわかりやすい、やりやすい配慮を考えます。

暮らしの中でも同様、自分も暮らしやすく、手を貸す人もやりやすい間取りとは?



女性の設計事務所による参加型リノベーション講座

「黒板塗装」…家の中の壁に遊びを持ちこむ…

ご自宅をリノベーションをする時、我が家しさを一工夫してみませんか?たとえば、壁に「黒板塗装」をして、家の中の壁に遊びを持ちこむ、という方法もあります。ご自宅の壁に塗れる黒板塗装、その体験をしてみませんか?オーガニックペイントを使って、黒板(幅30cm、高45cm)を作りましょう!

日時 4月20日(土)13:30~15:30
場所 くらしのスタジオ(サンク)にて

*定員6名、事前に電話・メールでお申込みください。参加費は¥1000(材料費・税込)です。



住まいの哲学

どなど至れりつくせりです。

—— 外国にもありますね、日本もその方向に進んでいくのでしょうか？

ご登場いただいたAさんは、子育て中に宅建の資格をとり、その後、不動産会社で御活躍。そのお仕事と並行して、アパート経営をも実践され、現在は息子さん家族と2世帯同居。地域の一人暮らしのご高齢の方の安否訪問をボランティアで行っています。そんなAさんに「終の住処は？いかに、」をお聞きしてみました。

第六回 「終の住処はいかに？」

—— 終の住処についてはどう思っていますか？

60代ですがまだ模索中というところです。あと20年は人に頼らずぴんしょんして自分の力で自分の家にいるのが理想かな。

—— 自分の思うようにいかなくなつたらとの不安はありませんか？

ありますね。だから今、様々な形態の優良のニアホームが

あるので、情報を集めては体験見学をしています。

色々なしがらみから離れ自由に暮らす、そんな生き方も良いかなと思い、見に行つたのが何でもそろつている千葉県にあるホームでした。

住まいはマンションを購入し、それに付属している共用施設が充実して、街を形成していました。

医療は病院と提携、図書館（なまはんかではありません。専門書なども多数もそろつている）ライブもできるイベントホール芸能人の入居者がいて往年のオールディーズの生が聞ける）、スポーツジム、買い物に便利なショッピングモールな

夫の両親と2世帯で結婚以来暮らし、両親が亡くなりしばらくは夫と二人の暮らし始めたけれどなんとか物足りない。家族つてやっぱり一緒に住む方が良いのかと、息子家族と2世帯に。姑と暮らしててきた知恵で、他人とも身内ともつかない孫とも一緒に暮らしていくもそんなに我慢はしている気はありません。2世帯でうまく暮らす秘訣は“こころの割り切り”かも。

—— 仕事を通じて見えたことはありますか？

不動産の仕事ををしてきて、そしてアパート経営を通して感じることは、家は財産と暮らしとがミックスされているからややっこしいのかなと。家は住み心地が良いのが一番。

自立できる住まいを維持して、元気に生きていることに感謝できる暮らしをしたいかな。

やっぱりこれでは答えになつていないです。でも冒頭にもお話をしたけれど、元氣で今住んでいる家で快適に暮らすことが理想かもしれないです。

塗装でぬくもりを感じる木製品

ペンキ仕上げ、塗装と言ふ言葉からなんだか安っぽい？というイメージはありませんか。

実は塗装は、建築の世界でもとても奥の深い分野です。塗装には、工場で既製品、塗装屋さんの手しごと作業、そしてDIYで楽しむペンキ塗りなど。

塗装は塗る材料で仕上がる表情も千差万別、色も調合すれば無限大に自分のこだわりを実現できるのが特徴です。

最近、家を建てる方の中に住まいのどこかを自分たちで仕上げてみたいと言う方が増えてきています。からだにやさしい自然素材の塗料で壁や建具を自分で塗ってみませんか。

住まいに対する愛着がまたひとつ大きくなりそうです。

また、クロスの上から塗れる塗料もあり、自分で模様替えが出来るのも魅力です。

サンクの くらしのアドバイス

建具は、木工所で建具を作り、手仕事で塗装した物です。



サンクリフォーム実例

素敵な

生き方

NPO法人チャンブルーの会
シルバーレストランサラ
ひろばサラ デイサービスサラ

紀平 容子さん



チャンブルーの会の看板娘。
毎日店番をしています。

言わないこと。こんなすてきな村を限界集落だなんてだれが決めたのでしょうか。人があふれ賑やかな都会こそ、人のつながりがどんどん希薄になり、子育て世代や高齢者や弱い立場の人たちが住みにくい限界集落ではないかと考えさせられます。

偶然住むことになった私のまちは、故郷から遠く離れているうえ風光明媚な土地でもありません。でも自分で一人一人友だちをつくってきた大切な場所。縁あって出会った人同士このまちで助け合って暮らしたいと考えた50人の女性たちが出資して、15年前この活動が始まりました。安全でバランスのよい食事ができ、お弁当も届けてもらえる「レストランサラ」、趣味が楽しめ、だれかと出会える「ひろばサラ」、介護が必要になつたときの「デイサービスサラ」。これら3つのサラは小さな商店街のなかでも目立たない存在です。

15年前、古い団地の一角の商店街に地域の人々が集まるレストラン、「デイサービス」を開き、新たな「コミュニティ」を創りだした主宰者、紀平さんのご紹介です。

過疎と高齢化のため限界集落といわれた村に移住した若い夫婦に聞いたお話です。慣れない農作業で忙しく、赤ちゃんの世話を困っていたら、近所のお年寄りが代わる代わるおぶつて寝かしつけてくれたこと。日常的にお年寄りがぶらぶら歩いておられる姿を見かけるけれど、それは散歩であつて徘徊とはだれも

停電や物不足という厳しい状況に直面したときには、デイの送迎やお弁



赤い椅子が目印のレストランです。



毎週木曜日にお茶を飲みながら、おしゃべりを楽しんでいます。

※レストランサラのリフォームはサンクでお手伝いしました。

当配達の車に、自家用車からガソリンを分けてくださったり、お米や家庭菜園の野菜を届けてくださる方などがつぎつぎと表れ、とても助けられました。人のつながりという目に見えないものが見えた気がしました。時代を嘆くばかりではなく、アイデアとネットワークで必要なものを創り出し、温かい日々を重ねていけたらと思っています。



皆様からの感想、投稿もお持ちしています！

生活デザイン設計室 株式会社 サンク 一級建築士事務所

CINQはフランス語で“5”という意味。

1984年に女性5人で設立した建築設計、インテリアデザイン事務所です。

“間取りの住みこち”をテーマに、個人住宅の設計や新築マンションの企画、住戸の設計、インテリアコーディネート等を数多く手がけ、間取りを変えるマンションのリフォームが得意分野。2010年「暮らしのスタジオ」オープン。

書籍:「間取りの読み方・描き方」「住みやすさが続くマンションの間取り」(ともに実業出版社)他

<http://www.cinq-sd.co.jp>

[仕事内容]

- 建替えのトータルな相談
- インテリアコーディネート
- 戸建て、マンションのリフォーム
- グリーンコーディネート



お問い合わせはフリーダイヤルで

0120-72-5039